子ども記者リポート ③

豊川市防災センター

南海トラフ地震で、どんな被害が豊川市周辺で想定され、どのように防げばいいのだろう。防災教育のための最新の展示物がそろった施設で、子ども記者はガイドラインを守ってＶＲを体験しながら災害について考えた。

自然災害にどう備えるか VRでわかりやすく学習

豊川市防災センターは2020年4月1日に、地元の人たちの防災意識を高め、備えを強化することを目的としてオープンした。

「見て、学んで、備える」ための最新の展示物がいっぱいあり、豊川市防災センターの鈴木要介さんが案内をしてくれた。

1階には、床面の巨大な地図の上に情報を映し出す「豊川まるごとプロジェクション」があって、津波や地震のことなどを映像などでわかりやすく教えてくれる。地震体験のVRでは、ゴーグルをつけて、地震の揺れや、棚などが倒れる様子などを体感した。

私は、VRでわかったことが二つある。一つ目は、VRは防災を楽しく学べるのに役立つということだ。地震の様子を見たり体感したりすることで、関心を持ちやすくなると思った。二つ目は、重そうな棚などが倒れてきたらこわいので、家具を固定することが大事だということだ。

防災センターで話を聞いて、気をつけたいと思ったことは二つある。

一つ目は、棚などが固定されているか、固定されていないかの違いで、被害に大きな差ができるということだ。地震の揺れの時に、固定されていない棚はすぐに倒れてくるので、この差はすごいなと思った。二つ目は、津波が起こる仕組みを説明する装置「津波ぶるる」で実験をしたときに考えたことだ。津波を起こすポンプを少し押しただけで大きな波ができて、模型の家などが簡単に倒れたりした。現実の津波だったらおそろしいなと思った。

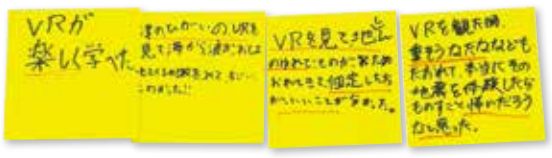
鈴木さんのお話では、山地と台地、低地では、気をつけなければいけない災害の種類が違うということだった。山地は土砂崩れ、台地は家がたくさんあるので地震で家が倒れることや火事、低地は津波や洪水。このことに気をつけながら、災害に備えたいと思った。

伊藤 琉那記者

豊川市防災センターの鈴木要介さん

床面の地図に情報を映し出す「豊川まるごとプロジェクション」

ＶＲで地震を体感する子ども記者



豊川市防災センター

鈴木さんの説明を聞く子ども記者

津波の仕組みを学ぶ「津波ぶるる」